

平成27年度 那覇中学校 学校経営

学校概要

学校長：山里 望 **教頭**：金城 孝子 **職員数**：54名（非常勤等含む）
生徒数：第一学年 183名、第二学年 223名、第三学年 216名 計 622名
学級数：21学級
（平成27年4月 7日現在）
所在地：〒900-0023 那覇市松山2-24-1 TEL 098-917-3405 FAX 098-917-3425
経営の基盤
 昭和23年（1948年）6・3・3制施行により壺屋初等学校より分離し那覇中学校として壺屋小学校内に開校し、まもなく旧上山国民学校（現上山中）に移転。「明朗・自治・協同」の精神で67年間県下屈指の伝統校として、生徒、保護者、地域で営々と築いてきた本校の歴史を重んじ、その継承を大切にするとともに、大きく変化する社会の中で、不易と流行を見極め、特色ある教育活動を展開する。

学校経営

経営理念 「協働・共有、尊敬・尊重」
 個々の教師が組織としての自覚を持ち、協働で課題を共有し、向かい合い、尊重し支え合うことで、学校運営の機能は最大限に発揮され、教育環境として確かな場が確立できる。このことを踏まえ、「協働・共有、尊敬・尊重」を**基本理念**に知的、人的、物的教育環境の整備につとめ、その環境を活かし、様々な特色ある教育活動を展開し、活気ある信頼される学校づくりに取り組む。

経営方針 「生徒一人一人の成長を目指し、常に生徒に視点を据えた学校経営にあたる」

経営指標

- 1 目指す学校像
 - 生徒が生き生きとして明るく安全で楽しい学校
 - 生徒・教師が共に学び、共に向上する学校
 - 環境整備や教育環境が整い、潤いある学校
 - 保護者・地域との連携を密にし、信頼される学校
- 2 目指す教師像
 - 生徒を愛し、支え、共に学ぶ教師
 - 責任と誇り、自信と勇気を持って実践し、自己研鑽につとめる教師
 - 生徒・保護者・地域から親しまれ信頼される教師
- 3 目指す生徒像
 - よく考え、自ら進んで学ぶ生徒
 - 明るく素直で思いやりのある生徒
 - 健康と安全につとめる生徒
 - 自然を大切にし、身近な環境保全を創造できる生徒

教育方針

基本方針
 生徒の可能性を伸ばすため、教師は常に生徒の立場を理解し、優しさの中にも厳しさをもち、お互いの実践をみんなの宝とする雰囲気の中で、教育目標の具現化に努める

実態

- 良い面
 - ・素直でルールやマナー守ろうと努力する
 - ・教師の指示に従いまじめに取り組む
 - ・学習用具を整え真剣に学習に取り組む
 - ・健康や安全に配慮することができる
- 課題
 - ・自主的調べ学習及び自己表現
 - ・読書
 - ・ボランティア活動
 - ・学習における計画的な予習・復習

考察
 基本的に素直で、教師の指示に従い言われたことに取り組む生徒は多い。自主的に行動することはできるが指示や言葉かけの意図を理解し行動することを苦手とする生徒が多いと考えられる。

学校教育目標

総括目標：**未来社会を創造する** **心豊かでたくましく** **活力に満ちた生徒の育成**

目指す
生徒像

よく考え自ら進んで学ぶ生徒

明るく素直で思いやりのある生徒

健康と安全に努める生徒

目標達成のために学校は

- 人間尊重の教育に徹し、個性と能力を最大限に伸ばす教育実践に努め、生徒の自己有用感、自己存在感を高め、望ましい人間関係の育成に努めます。
- 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成に努めるとともに基礎的・基本的事項の定着に努めます。
- 自ら健康と安全に留意し、豊かな心とたくましい体を培うとともに自主性、創造性の育成努めます。
- 教育環境の整備・美化に努め協同で積極的に根気強く責任をもって働くような勤労の精神育成に努めます。
- 社会性を培うため公共心、公德心、共生力の育成に努めます。

平成27年度重点目標

- 1 生徒一人一人に「思考力・判断力・表現力」を身につけさせ、基礎学力の向上を図る。
- 2 すべての教科で学習規律の徹底を図る。
- 3 家庭学習の習慣かを図るとともに効果的な学習法を身につけさせる。
- 4 道徳教育及び人権教育の推進を徹底し、「心の教育」を充実させる。
- 5 基本的生活習慣の確立に向けた取り組みの徹底を図る。
- 6 公共物を大切に、校内環境の整備・美化に努める
- 7 掲示教育の徹底を図り、教育環境整備・充実を図る。

平成27年度重点目標達成のための具体的方策

- 1 「わかる授業 support guide」、「にぬふぁ星メソッド」等に基づき、本校の実態分析し、具体的、計画的指導事項を確立し、基礎学力の向上及び活用する力を育成する。そのためには、校内研修の充実を図り、教師の指導力の向上と実践力向上に努める。
- 2 全職員の共通理解の下、「ベル前準備、着席、黙想、学習用具確認等、授業ルールの徹底を図り、活気ある参加型授業を確立する。
- 3 家庭学習の習慣化（チャレンジノートの活用）に全校体制で取り組むとともに各教科効果的な補充的学習課題を提示し、学習意欲の向上を図る。
- 4-1 「心を込めて挨拶ができる生徒」「話を集中して聞ける生徒」「心を込めて清掃をすることができる生徒」の育成のために、日常的な諸活動をとおして全職員体制で指導の徹底を図る。
- 4-2 年間計画に基づいた道徳授業の徹底実施し、道徳の授業を基盤とした各教科における道徳的内容の取り組み事項の徹底を図る。
- 5 生徒指導体制の強化を図り、全職員の共通実践に基づき、マナー、時間のケジメ、チコク・身なり・持ち物指導等、全学年統一した指導を徹底する。
- 6 公共心を育てる環境整備のため、視覚や情操に迫る整備計画（清掃、花、掲示物、破損箇所修繕、落書き等汚れ落とし）を立案・実践し、公德心、心の教育教育の充実を図る。
- 7 開かれた学校づくりをめざし、学校の様子を対外的に公開するため校内外掲示物（学年、各階廊下、体育館、周辺フェンス等）の充実を図る掲示教育の徹底を図る。

平成27年度 校内研修 ※小中一貫教育の推進に向けた取り組み

1 研究テーマ（小中一貫校統一テーマ）

『思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実』

～「かく活動」の指導に視点をおいて～

2 設定理由

キャリア教育の全体図として、社会的自立・職業自立に向けて必要な意欲・態度や能力の育成がある。また中学校におけるキャリア教育の目標の一つに、肯定的自己理解と自己有用感の獲得があるが、この背景には学校での学習が自分の将来を築いてくれるという意義が見い出せずに、学習意欲が低下し、学習習慣が確立しない状況があると指摘されている。

これからの変化の激しい社会で自立的に生きるためには、思考力・判断力・表現力を育み、知識や技能を活用できる能力を育てる必要がある。学校生活と社会生活、職業生活を結びつけ、関連付けることで、将来の夢と学業が結びついているという実感を持たせることが重要になってくる。

本校においては、将来の職業や生活の見通し、社会のために自立的に生きる姿勢について道徳教育や、総合的な学習等を通して取り組んでいるが十分とはいえない。本年度は小中一貫教育の導入ということを踏まえ、小中合同テーマとして「かく活動」の指導に力を入れることで、生徒の思考力・判断力・表現力を育てる言語活動の充実につながると考え本テーマを設定した。

〈参考〉 県主要施策で求められている事項

「生きる力」を育むために、キャリア教育の視点を踏まえた「確かな学力」の育成を図る

